

# かぼちゃ栽培技術情報 No 5

平成30年7月5日

組 合 員 各 位

J A 営 農 支 援 課  
特産かぼちゃ生産組合

## 病気の対策について

今年はやや高温気味で推移しており、生育も平年並みまで回復傾向にあります。また、梅雨に入り雨の日が続き、これからの病気の発生が予想されますので、十分な病害虫対策に努めてください。

### 1. 病害対策

今年が多雨のため、疫病の発生が懸念されます。昨年度、疫病が発生した圃場や排水不良の圃場では、防除等の対策をしてください。

薬剤名	成分系	病害等	倍率	使用量 /10a	使用時期	本剤 使用回数
リドミル銅水和剤	無機銅系	疫病	800 倍	100～300	収穫 14 日前	3
Z ボルドー粉剤 DL	無機銅系	疫病	—	4kg	—	—
ジマンダイセン 水和剤	有機硫黄系	つる枯病 べと病 炭疽病 疫病	600 倍	100～300	収穫 21 日前	2
イオウフロアブル	無機硫黄系	うどんこ病	500 倍	100～300	—	—
ダコニール 1000	有機塩素系	うどんこ病 白斑病 べと病	1000 倍	100～300	収穫 7 日前	3
スミレックス 水和剤	カルボキサミド系	菌核病	1000～2000 倍	100～300	収穫 14 日前	3
ポリベリン水和剤	グアニジン系	うどんこ病	1000～2000 倍	100～300	収穫 7 日前	3

※薬剤を散布する際、展着剤を混ぜて使用してください。ただし乳剤・フロアブル剤の場合、展着剤は必要ありません。

※イオウフロアブル、Z ボルドーは蜂への影響日数が1日となっております。

※銅剤は他の農薬と混用できませんのでご注意ください。

うどんこ病が確認されている圃場もありますので、早めの防除をお願いします。

## 2. アブラムシ対策

定期的に薬剤散布を行う。薬剤選択に際しては、ミツバチへの影響を考慮し、下記の薬剤にて防除する。

薬剤名	成分 (系統)	使用量 (10a 当)	使用時期	本剤使用 回数	成分使用 回数	蜂への 影響日数
モスピラン 顆粒水溶剤	アセタミプリド (ネオニコチノイド)	2000～ 4000 倍	収穫前日まで	2	2	1 日
マブリック 水和剤	フルバリネート (ピレスロイド)	4000 倍	収穫 21 日前	2	2	1 日
マラソン 乳剤	マラソン (有機リン)	2000～ 3000 倍	収穫前日まで	5	5	7～10 日

※上記以外の薬剤を散布する場合には、ミツバチを撤去後散布する。  
※モスピラン顆粒水溶剤とマブリック水和剤は資材課で購入の際、  
印鑑が必要となります。

### モザイク病

病害ウィルスはアブラムシで伝搬される。葉脈の透過、緑帯、葉の奇形を伴う。病気の特  
性上病気が発生した場所より蔓先にしか症状は出ない。病気が発生した場所より株元には影  
響はない。モザイク病に対する防除薬はなく、アブラムシ防除を行うことが重要。

モザイク病が確認されている圃場もありますので、早めのアブラムシ防除をお願いします。

着果後、およそ 45 日程度で収穫となりますので、収穫日の目安となるよう着果  
日を確認しておいてください。 ※着果日は雌花が咲いた日

## 3. 果実への皿引き

着果後、果実がりんご程度の大きさになったら果実の下に皿(トスコ F マット等)を敷く。  
皿を敷くことで、地面に接している果実の色が変わることがなく、泥・傷が着きにくい、き  
れいな外皮のかぼちゃができる。ただし、白い皿の場合はかぼちゃの外皮が黄色くなり、品  
質が低下する可能性があるためできるだけ使用しないこと。皿敷きは雨が降る前に行う。